私学高等学校・中学校における
部活動の新しいプラットフォーム（関学モデル）構築に向けて

関西学院高等部・中学部

2022.2.28

目次

1. 背景・目的

2. 検証概要

3. 検証結果の報告
   ① メイキングストーリー
   ② そこからの学び・示唆

4. 今後に向けて

Copyright © 2018 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

目次

1. 背景・目的

2. 検証概要

3. 検証結果の報告
   ① メイキングストーリー
   ② そこからの学び・示唆

4. 今後に向けて

Copyright © 2018 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

課題とゴール

1 教員の働き方が適正となる部活動を目指す

- 職務における「部活動」の範囲を検証
- 職務とは別に、教員が部活動の「技術指導」を行える仕組みを検討

2 関西学院の目指す 「真に豊かな人生」につながる部活動の実現を目指す

- 部活動は教育的価値の高い生徒の自主的な活動であり、生涯にわたったコミュニティの場である。
- 関西学院の部活動の意義を継承し、教員の新しい関わり方の部活動運営を目指す

3 部活動における私学としての新しいプラットフォームを目指す

- 同様の課題を抱える他校にも関学（KG）モデルとして横展開や連携を目指す

部活動を取り巻く教員の働き方改革を進め、持続可能な部活動の仕組み構築を目指す

目次

1. 背景・目的

2. 検証概要

3. 検証結果の報告
   ① メイキングストーリー
   ② そこからの学び・示唆

4. 今後に向けて

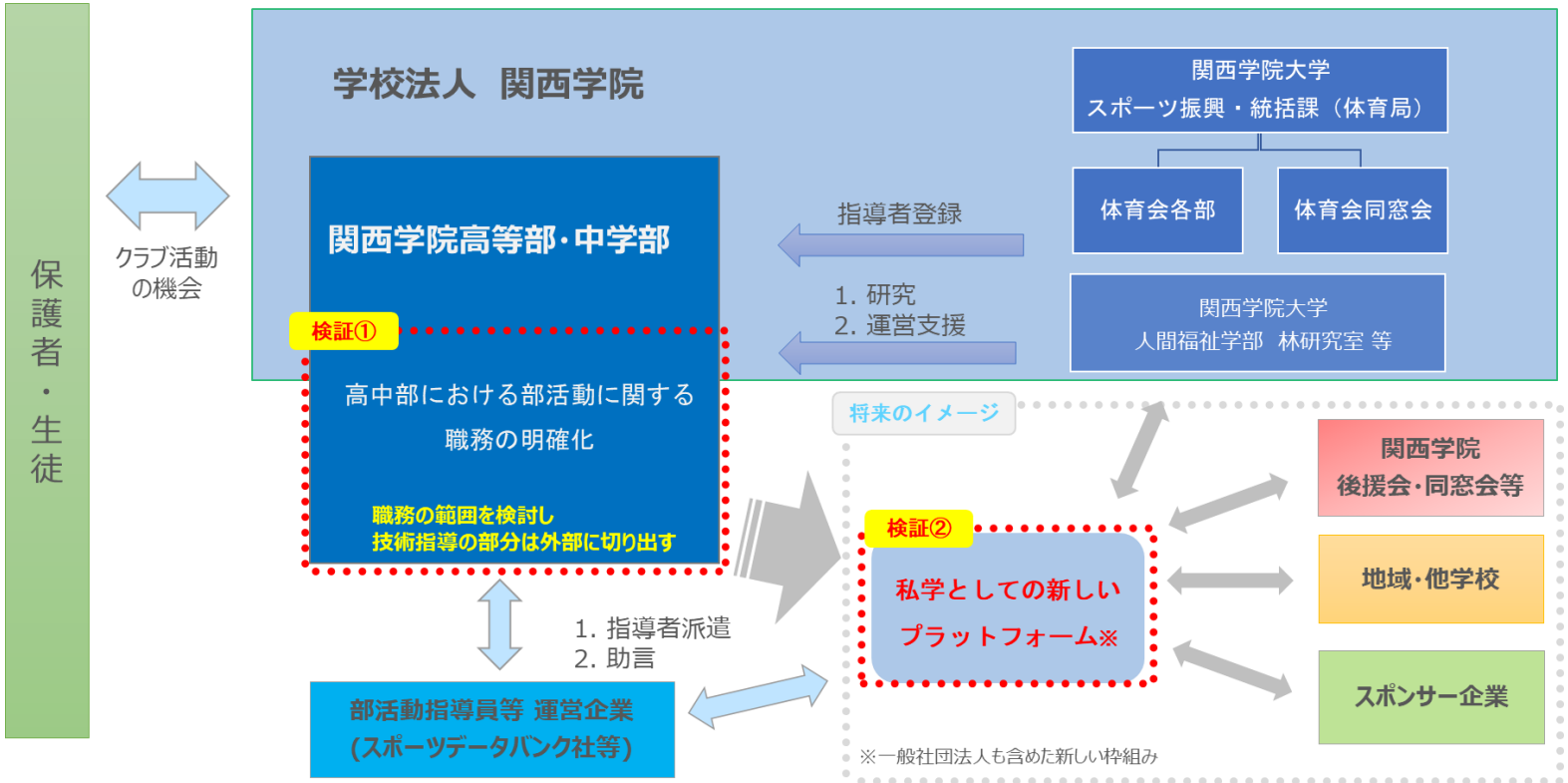
Copyright © 2018 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

検証概要と目指す姿

検証概要

類型	D類型
事業者	関西学院高等部・中学部
コンソーシアム構成事業者	スポーツデータバンク株式会社
実証自治体/学校	関西学院高等部・中学部
概要	私立学校の新しい部活動の形として、外部に何らかのプラットフォームを持ち、そこへ部活動を移行していくことを検討。将来的には、地域に対して、オープンな場にすることも検討。

目指す姿：私立学校の新しい部活動の形として、外部に何らかのプラットフォームを持ち、そこへ部活動を移行していくことを検討



検証ポイント

ポイント		概要	実証有無
①学校部活動としての位置づけについて検討（高中部の部活動に関する職務の明確化）	1 部活動の教育的価値	“高等部・中学部での部活動を通して生徒の「何を」「どのように」育むか”ワークショップを実施。教員が考える「部活動」の教育的価値を整理	✓
	2 職務範囲の明確化に向けた検討 指導員活用について	現・職務規程に「生徒指導・部活動における指導職務」と記載があるが、「部活動における指導職務」の範囲が明確化されておらず、部活による差がある状況。教育的価値を提供するために教員が関わるべき職務範囲について教員のアンケートを通じて整理。積極的に部活動に関わっている教員に対して業務内容及び部活動指導員活用について個別ヒアリングを行う。	✓
②大会参加資格の整理	3 大会参加資格の整理	現行の大会参加における規則・規定を調査 「部活動指導員」でも対応が可能か、「教員」でないと対応が難しいかを整理	✓
③部活動費用の見える化	4 部活にかかる費用の調査	現行の各部活動の予算及び保護者負担、部活動にかかる費用を調査 外部化する際の資金計画のシミュレーション	✓
④後援会・同窓会・企業との連携	5 地域との協働	部活動を外部化した先のプラットフォームへの関わりについて、 同窓会や企業に民間事業者によるスポンサーメリットについてヒアリング	✓
⑤プラットフォーム設立時の手続きおよび課題	6 プラットフォーム設立時の手続きおよび課題	プラットフォーム設立時の手続きおよび課題を整理 私学としての新しいプラットフォームを設置した場合の手続きおよび課題を整理	✓

提案時の事業計画

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
制度設計	• 新しいプラットフォーム構築の検討 • 教員の職務範囲の検討 • 教員・生徒・保護者への明示準備	• 新しいプラットフォームの試行 • 教員へ職務範囲の明示・運用開始（任意・自己研鑽） • 生徒・保護者への明示	• 新しいプラットフォームの実運用開始 • 教員の職務範囲の定着及び教員の副業として指導者登録開始 • 他学校との連携や他私学への横展開 • 地域を対象にした外部活動の可能性を検討		
活動資金	• 活動資金の試算 • 資金調達の手法検討 • 各部活動費用にかかわる調査	• 学内予算の活用方法を検討 • 持続可能な活動のため外部資金調達	• 学内予算の活用方法を検討 • 外部資金調達 • 事業規模の拡大による収益確保の可能性を検討		**目指す姿の実現**
大会参加	• 各種大会参加における規則・条件調査 • 大会参加における本学内の整備	• 部活動指導員が参加・帯同可能な大会は部活動指導員が参加 • 教員の対応が必要な種目・大会においては、教員の職務「顧問」として対応 ※中体連・高体連の規定に伴う対応			

目次

1. 背景・目的

2. 検証概要

3. 検証結果の報告
   ① メイキングストーリー
   ② そこからの学び・示唆

4. 今後に向けて

Copyright © 2018 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

検証の歩み

見出	詳細p	年月日	議論相手・会議名	概要
		21/9/24		「未来のブカツ」イベントに枝川・田澤が登壇
a.	p.11	21/10/5	他校との意見交換①	東京都内の私立中学校・高等学校と意見交換
b.	p.12	21/10/22～	高中部部活動検討WG	実証事業を進め方について進捗・報告・意見交換を行う場。 本学における部活動のあり方について、定期的に実施。
a. b.	p.11 p.12	21/11/1	他校との意見交換② 有志教員による懇談会	福岡県内の私立高等学校と意見交換 「これからのクラブ活動に関する懇談会」を実施。高等部教員17 名、中学部教員7 名、両部の事務長2 名、計26 名が出席
c.	p.13	21/11/15	経済産業省・BCG	経済産業省・BCG来学 理事長、学長と懇談の後、 高等部、中学部教員と事業の説明および意見交換
		21/12/14		「未来のブカツ」イベントに原田が登壇
d.	p.15	21/12/15	高等部・中学部合同教師会	①各教員の「主観」により、部活動の教育的意義を問いなおす ②「関学らしい部活動」について教員が互いにアイディアだし を目的に実施
a.	p.11	21/12/24	他校との意見交換③	大阪教育大学附属高等学校平野校舎を訪問し、松田雅彦先生から、 ひらの倶楽部の概要、基本的な考え方についてレクチャーいただいた。
e.	p.17	22/2/2	教員へのアンケート	実証事業の総まとめとして、教員へのアンケートを実施 高等部39名、中学部22名の計61名が回答
f.	p.27	22/2	教員へのヒアリング	実際に部活動に関わっている教員へインタビュー 現在の職務内容や部活動指導員活用に向けた意見をヒアリング
g.	p.28		プラットフォーム立ち上げに向けた 専門家(SDB株式会社）への聴取 同窓生や企業へのヒアリング	プラットフォーム設立時の手続きおよび課題を整理 外部企業から見たスポンサーメリット等について、同窓生や企業等にヒアリングし コメントを受けた

b.高中部部活動検討WG

概要

- 年月日
  - ①21/10/22
  - ②21/11/1
  - ③21/12/8
  - ④22/1/21
- 参加者
  - 部長、副部長、生徒部主任、事務長 計8名
  - 高等部教員17 名、中学部教員7 名、両部の事務長2 名、計26 名

議論内容詳細

- 年代が上になるほど、採算面などから学外におけるクラブ化が難しくなる現状がある。
- 文化部よりもまずは運動部に絞って検討をすべき。
- 具体的に、外部化した際に、生徒や教員がどのような動きになるかを特定の部活動でイメージできた方が理解と議論が深まりやすいのではないか。
- 教員有志で、「これからのクラブ活動に関する懇談会」を開催し、教員の意見や考えを引き出す。
- 部活動指導員に任せる＝周りからの学校の見え方を懸念
- 学校のスケジュールにぴったり合う外部指導員はなかなかおらず、労働時間の削減に繋がるか懸念。
- 高等部において、男子生徒はクラブ活動を目的に受験し、大学を見据えながら、入学する生徒が多い。学校としてクラブ活動を魅力としているわけではないが、関学を目指している生徒の理由がどこにあり、どういう学校を目指すのかという整理が必要ではないか。
- 共学校になってから施設、設備は改善されてきたものの、女子生徒にとってクラブ活動をしにくい状況がまだ残っているように思われる。まずは学校としてのグランドデザインを策定することが先決ではないか？
- やりたい先生がやりたいようにする、ということが大事だと考えている。働き方改革の観点から、もっと自助努力でやれることがあるとすればクラブの数を絞ることではないか。
- クラブ活動への関わり方を大中小に分けるとすると３種類の先生が生まれる。授業専門もしくはクラブ専門の先生は作りたくない。

まとめ
私学における学校教育のあり方＝部活動のあり方は密接な関係
構成員（教員）の意見や考えをしっかり吸収し、一定の納得感を得ながら、部活動改革を進めていく必要がある

c.経済産業省・BCG　教員との意見交換

概要

- 年月日
  - 21/11/15
- 参加者
  浅野　大介（経産省）
  石川　凌（経産省）
  中島　可南子　（経産省）
  遠藤　英壽（BCG）
  平川　文菜（BCG）
  高中部教員（13名）

議論内容詳細

経済産業省より研究会の主旨および実証事業の背景や目的等を説明し意見交換。

●教員A

普段の生活指導の延長に部活動があると思っている。ミニマムの単位で教員と指導者の仕事を切り分けることは難しいのでは？
例えば、退学者などが出てきた際に、担任以外で話を聞く等なると顧問が役割を果たすと思うが、生徒指導を行うのは指導員ではないと思っている。
学校の先生＝時間内でできることは限られている。「やらない自由」＝宙ぶらりんになることが多く発生するのでは？
→教員としての顔、指導員としての顔を使い分けてもらうしかない

●教員B

委託は「偽装請負」になるのでは？月謝と学費をどう考えるか？
→部活＝学校の業務じゃないとする前提が必要。他校では6000円の月謝を保護者から集めている例もある。今後お金の使い方も変わってくるのでは？

●教員C

日本の「部活動」はヨーロッパ型に変えないと難しい。有償ボランティアでコーチのレベルをあげ、やりたくない先生はやらなくてもよい仕組みにしたい
→部活動選択、変更の自由が日本にない学校が母体としてある以上、「それはクラブのことでしょ」、といえない。
部活動＝社会教育と明言することが大事。一方でクラブの教育的意義はとても大事であることも理解している。

●教員D

短期的な働き方改革と、長期的な視点が混在していて難しい。野球はプロがあり、甲子園もある。学校の看板を背負って戦うという生徒の成長もある。
→多くの公立では１チームが組めない学校もあり、その課題解決として合同チームとしたらいいという考えもあった。
関学が大事にしてきた、教育「信条」を前提にすると切り離すこと自体、葛藤があることは理解。学校の組織＝色んなスタイルの色んな教育があってよい。

●教員E

部活動を外に切り出すことのメリットは、①部活動指導したくないという先生が開放される②ボランティアであってもやりたい先生が続けられることであるが、
【関学の魅力】を考えた際、中学校は部活動の切り出しが特にどこまでニーズがあるのか？という懸念もある。保護者は学校＋部活も面倒見てくれているという価値を感じており、働き方改革の観点で部活動を「切り出す」という点に対して理解してくれる家庭がどれだけあるかは懸念（特に中学）。切り出した先での「質」の担保というのは課題になると思っている。
→「切り出す」がそんなに変わるのか？という感覚はある。クラブの横並びの課題もあるので、KG内の自助努力で20個のクラブを10個にしよう、という議論もある気もしている。働き方改革として労働時間（負荷）を削減＋学校としての魅力の担保、どう落としどころを付けるかが最後大事になると思う。

●教員F

担当顧問の経験者ではなく、指導員をいれてもらって技術的には上手になる反面、うまくいかないことも多く、実際に保護者からもクレームがあった。実際に先生が見てくれなくて残念という発言も保護者からあった。部活動＝居場所の一つになっているので、完全にクラブの外部化ができればと思うものの、子ども目線で考えるとすべてを切り出すことは難しい
→外部指導員の力量にもよる部分もある

まとめ
- 部活動が学校の特色であるものとして位置付けられている現状では、
  学校から「部活動を切り出す」過程では一部分にするか、大部分にするか、生徒や保護者への説明等丁寧な対応が求められる。
  指導員との役割分担、連携も見据え、教員と「部活動」に関わる範囲や職務はどこまでかを議論していく必要がある

d.高等部・中学部合同教師会

概要

- 年月日
  - 21/12/15

議論内容詳細

●実施目的
①各教員の「主観」により、部活動の教育的意義を問いなおすこと
②「関学らしい部活動」について教員が互いにアイディアをだすこと

●実施概要
冒頭、藤原中学部長、枝川高等部長が趣旨を伝えたのち、田澤副部長の進行により、スタート。
全出席者がグループ（各グループ3～4 人程度）にわかれ、【あなたは、関学での部活動を通して、生徒の「何を」「どのように」育みたいですか？】という問をもとに、KJ 法により意見を出し合うスタイルで実施し、最後に部活動における教育的意義をグループごとに発表した。

●各グループが考えた部活動の教育的意義
1．場数を増やす（他校・他学年の関わり）リーダーシップや専門性、自主性を育むこと
2．規律、生活習慣、様々な価値観を持つ人と関わることでの学びを得ること
3．普段の授業では感じ取ることができない、挨拶・マナー、生きていくための力を生徒が主体的に学ぶこと、技術向上や専門性を高めるうえでの向上心を育むこと
4．主体性、集団におけるルールを学び、個性、メンタル、人間力を育むこと
5．(相手チームも含めた)他者との関わり、お互い認めあうことの大切さ、礼儀・ルールを守る、努力し、問題解決をする力などを育むこと
6．マナーや自主自立、多様性を認めること、新しい自分の発見、忍耐力や柔軟性を身に着けること
7．集団そのもののありよう、集団の中の個人の役割を学ぶこと（人間形成）
8．集団活動を通じて多様性理解をすること
9．豊かな心、積極的な姿勢、感謝の気持ち、失敗しても立ち上がること、仲間を思いやる気持ちを育むこと
10．上下関係、横のつながり、OBOG との関係の中で人間性、専門性、レジリエンスを育むこと
11．発達段階に応じた心の成長に沿うことで育まれるものがある
12．達成感や自立性、人間関係構築力を育むこと
13．技術よりも内面的な人間性を育むとともに、実体験を積ませることにより、活動そのものを好きと思う心、社会性、マナーを身につけること
14．競技に必要な力を養うことによって得られる競技を楽しむための力を身につけること
15．「違い」を乗り越えていくことの大切さを感じること

まとめ
- 部活動の教育的価値があると認識しているからこそ、「外部化する」・「職務からなくす」という選択肢に踏み切ることが難しい
- 一方で、この「教育的意義」は「部活動」でないと育めないポイントなのか、教員でないと担うことができないのかについては検討課題

d.高等部・中学部合同教師会

概要

- 年月日
  - 21/12/15

議論内容詳細

●各グループより提示された内容

What（何を）	**＜精神・心＞** メンタル・忍耐力・柔軟性・豊かな心・レジリエンス・精神力持続力・我慢する能力・努力	**＜礼儀・マナー＞** ルール・規律・礼儀・マナー・モラル・礼節	**＜人間関係構築力＞** 仲間づくり・協調性・集団人間関係の構築・社会性・他者への理解・感謝
	＜自主自立・主体性＞ 自主自立・主体性・積極性達成感・自己肯定感・好奇心リーダーシップ	**＜問題解決力＞** 目標設定・時間管理・タスク管理・問題解決	**＜表現力＞** 創造力・表現力・発信力・自由
	＜愛校心＞ 伝統・愛校心・思い出	**＜専門性＞** 専門性・技能・フィジカル・体力	**＜多様性＞** 多様性・ダイバーシティ
How（どのように）	**＜ルール・規律＞** ルールを守る・時間を守る・メリハリのある生活・運動習慣・あいさつ	**＜人間関係＞** 協力をする・喜びを通して・活動の経験を通じて・多様な活動やクラブ	**＜集団行動・社会性＞** 集団ことすることによって・仲間と共にすごす・ぶつかり合い・役割分担・長期間過ごすこと
	＜自主自立＞ 自分で考える・教員がいなくてもできるように・やってみる	**＜計画性＞** 話し合いで・練習計画をつくる・メニューづくり	**＜達成感＞** 大会やコンクール、展示会などを通じて
	＜判断力＞ 成功体験や失敗体験・自身の選択		

e. 高等部・中学部教員への部活動に関するアンケート

概要

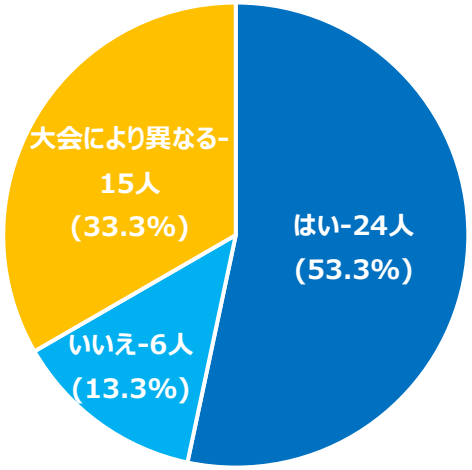
- 内容
  - 実証事業の総まとめとして、教員へのアンケートを実施
  - 高等部39名、中学部22名の計61名が回答

- 期間：2022年2月2日～2022年2月17日まで高等部教員、中学部教員の計61名に依頼
- 方法：Formsによるアンケート
- 回答件数：61件（うち高等部39名、中学部22名）
- 回答方式：部活動に関する23項目を選択式・自由記述にて回答
- アンケート内容：
  属性・担当部活動・部活動に関わる時間・教員が担うべき職務範囲について
  部活動に関する公式試合・練習試合・合宿等の日数
  大会運営の有無・日数、教員が担う必要の有無について
  徴収している部費の金額および内容
  新しい部活動のあり方（例：プラットフォームを立ち上げる）場合の教員視点の懸念
  生徒目線での懸念、部活動の改革における自由コメント
- 結果：次頁以降に項目ごとに整理して記載

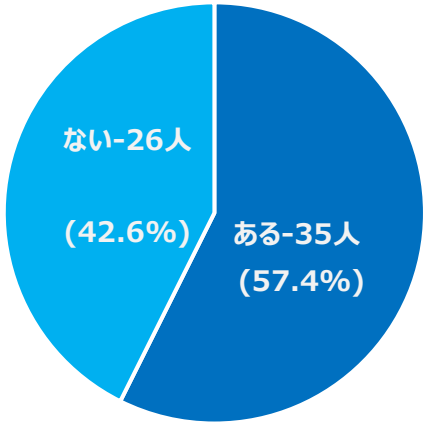
e. 部活動に関する大会引率・大会運営について

まとめ：教員の引率・運営が必要な大会が多い。
顧問における、大会運営等、教員でなくても実施可能な仕事も多い。
引率・管理の問題が解消されるだけでも、教員の負荷を減らすことが可能。

- 大会引率は教員である必要があるか？



- 部活動顧問として大会運営の有無



- 部活動に関わる大会引率等の日数（最大値・平均・合計値）

	種別	公式大会	練習試合	合宿遠征
最大値	高	48	100	30
	中	50	45	14
平均	高	19	24	9
	中	13	11	3
	高中	16	18	7
合計	高	429	519	201
	中	239	177	55
	高中	668	696	256

【単位：日】

【頻度(日数）】

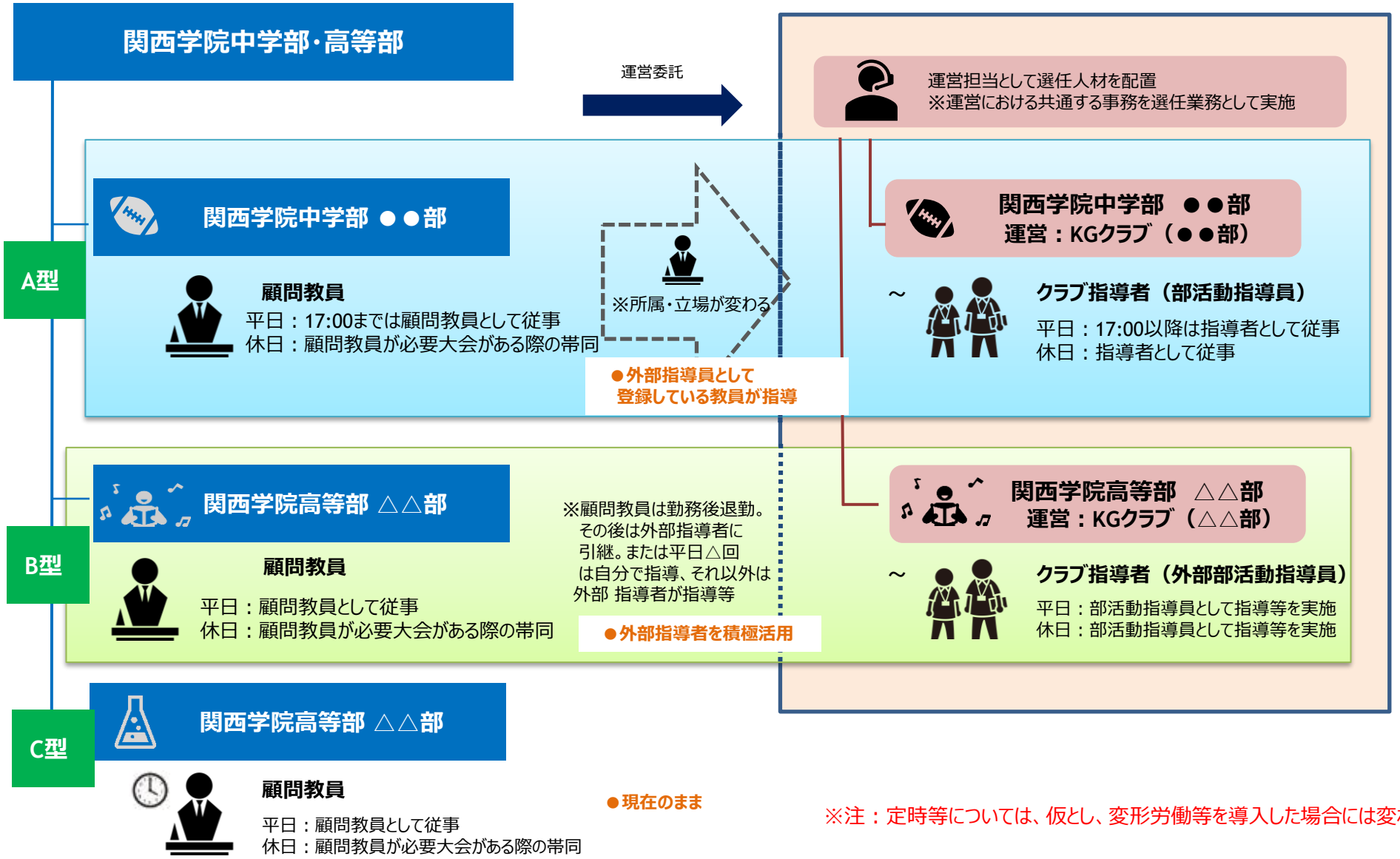
高等部は年平均16.1日(合計370日）
中学部は年平均17.5日（合計210日）ほど運営に関わる業務が発生
最大値でみると、
高等部では40日、中学部では50日大会運営に関わっている。

【大会運営の具体例（自由記述）】

大会の主審や副審・審判、役員として記録係、協力競技役員（多数）
兵庫県私学連合美術展のチーフ
中体連関連の総務委員長（会計、飲料等の買い出し弁当の発注、顧問会案内、全て行う）
本学が会場の場合は会場運営が必要となる
サッカー協会主催３種会計担当（会場費の割り振り、飲料などの買い出し、会場責任者）
総体の本部役員、選手権大会の本部役員、新人戦の本部役員、市民大会の本部役員
グランド整備や生徒活動補助
大会運営（計時・会場見回り・招集など専門でなくてもできる仕事）
コンクール・コンテスト・各演奏会における、受付・生徒誘導・楽器運搬補助等および役員活動
兵庫県ラグビー協会阪神地区の会計を担当
その他講師、審査員、役員、賞典、試合組合せ表や運営計画を作成　等

e. アンケート上で新しい部活動のイメージとして教員に提示したイメージ図

A型…部活動＋KGクラブに積極的関与を希望する教員
B型…部活動の指導を一部のみ担い（顧問業務・公式試合の引率）、外部指導員を積極活用
C型…活動日数が少なく、指導が負担となっていない教員



※注：定時等については、仮とし、変形労働等を導入した場合には変わる可能性あり

f.積極的に部活動に関わっている教員の業務内容及び部活動指導員活用の意見

	主顧問業務
部活動（クラブ）運営・管理 黒字＝主顧問が担っている業務 青字＝主顧問以外の顧問が担っている担える業務 赤字＝KGクラブ化した際に顧問教員から切り離すことができると考える業務	保護者会の開催
	保護者会代表者との連絡・調整
	外部指導者との調整
	必要備品の購入
	部費の徴収／通帳管理
	保険加入手続き
	入退部管理
	合宿や県外遠征の手配／旅行会社との調整
	顧問会議（市・県）
練習運営・管理・指導 黒字＝主顧問が担っている業務 青字＝主顧問以外の顧問が担っている担える業務 赤字＝KGクラブ化した際に顧問教員から切り離すことができると考える業務	生徒マネジメント
	練習場所調整・日程調整
	練習日程表作成
	練習試合の調整
	道具の管理
	練習環境の管理（維持・保守管理）
	試合メンバー決め
	練習内容の考案
	怪我・事故の対応
大会申請・運営・管理 黒字＝主顧問が担っている業務 青字＝主顧問以外の顧問が担っている担える業務 赤字＝KGクラブ化した際に顧問教員から切り離すことができると考える業務	大会参加申請（個人種目・団体種目）
	大会抽選会への参加
	大会運営
	大会帯同（個人は保護者可）
	大会での審判（競技経験教員）
	大会委員（公文書作成・ご案内）

外部指導員活用に対する教員の声

- 技術指導を任せられるのは、その他部活動業務があるので、とても助かる
- 顧問の考えを理解した上で指導を組み立ててもらえている
- 指導日程をICTを活用したことで共有が早くなった
- 練習に関する打ち合わせ機会を増やし、顧問の考えをもっと共有したい
- 大会に関すルールが整備され、外部指導員のみでも可能となった場合には依頼をしたい
- 使用している練習場所が流動的に複数部活動が活用するため、学校の都合に合わせることができる指導者に依頼をしたい

黒字＝活用への前向きな意見　／　赤字＝活用への要望・意見

教員の部活動業務の範囲について

左記表の通り、すべてを教員が担うには通常校務に加え範囲が広すぎる。
複数顧問の部活動及びマネジャー所属部活動では、既に業務範囲の細分化が図れている実情。
教員が担っている業務の中にコーディネーター（事務局）が介入することで負担軽減を図れる。

例えば、合宿・遠征手配や旅行会社との調整は、民間事業者が得意としており、
専門人材がコーディネーター（事務局）として教員へヒアリングを行うことで他種目の調整が可能。

また、お金の管理（保険申請含む）や購入物、活動に必要な資料作成、練習環境の維持についても同様。
指導を担う外部指導者が日々の活動を主体で取り組むため、お金が伴う部分を外部指導者とコーディネーター（事務局）で調整を行い、活動に付随する資料作成や環境維持についても外部指導員が担えば、
練習に関係する業務が一貫される。

大会に関連する業務については、国の整備が必要となる部分はあるが、整備された場合は
外部指導者が担うことができる。整備がされる前でも、参加申請の書類手配などは切り離せる可能性は十分ある。

左記黒字部分については一部教員の介入が必須となる部分もあるが、
保護者会開催、連絡・調整業務については外部指導員が主体となった活動となる場合、外部指導者及び
コーディネーター　（事務局）が担うことができる。

※上記業務範囲の整備をする上では、事務局側の体制整備を行うことも重要な課題

g.プラットフォームを立ち上げると想定した場合のシミュレーション

プラットフォームを202X年11月に立ち上げると想定した場合の手続きおよび課題等を次スライド以降に記述。

	202X年度									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム設立	設立決定	設立準備（基本事項・定款作成・認証等）※専門家連携			登記申請等	プラットフォーム設立				
運営・管理	運営方法の構築／学校調整方法の検討			運営・管理体制等の準備		プラットフォーム設立による部活動の運営				
部活動の移行		教員への説明		生徒・保護者への説明		外部指導者を活用している部活動より移行開始・運営				
教員の兼職兼業	労働基準法及び月間変形労働等 学内内部整理／方針検討									
		アンケート調査（ニーズ調査）					※必要に応じた実証			
保険制度	必要な保険内容の整理		活用保険の調整・情報収集		加入準備	民間保険の活用（大会時については、現行の保険の可能性あり）				
活動資金	計画作成	資金確保の手法検討／今年度運用資金の調整				学院による経営支援金による運営／寄付・外部資金の確保等の企画・提案の実施				
大会参加	既存大会ルールの整理と課題抽出					規則に合わせた大会参加のための整理と実施				
評価・分析										
次年度計画										

保険・責任問題

プラットフォームを立ち上げると想定した場合、これまでの保険が活用できないため、参加する生徒・教員・指導者の保険を外部の保険に加入する必要がある。また、プラットフォームとしても賠償責任等の保険加入が必要となる。必要な保険内容の整理と加入する保険イメージは以下。
また、学校における責任範囲とプラットフォームにおける責任範囲についても明確にしておく必要がある。

	202X年度									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保険制度	必要な保険内容の整理		活用保険の調整・情報収集		加入準備	民間保険の活用（大会時については、現行の保険の可能性あり）				

既存の活用保険

＜災害共済給付＞
学校の設置者が保護者等の同意を得て、センターとの間に災害共済給付契約を結び、共済掛金（保護者と設置者が負担します）を支払っている保険（920～2,150円／人）。
学校管理下における各種活動に対する傷害などを補償。

民間の各種保険（参考例）

＜スポーツ安全保険（生徒・指導者）＞
誰もが安心してスポーツや文化などの団体・グループ活動（社会教育活動）に参加できるようにするため、（公財）スポーツ安全協会が損害保険各社と協力して作り上げた保険。
被保険者が活動中に負った傷害による死亡・入院・通院等、賠償責任等を補償。

＜スポーツ安全保険（プラットフォーム）＞
スポーツ活動を行う法人向けの賠償責任保険。活動中に起こった傷害に対してプラットフォーム側が賠償責任を負った場合に補償される。

＜Chubb損害保険（SDB社加入保険）＞
プラットフォームで加入することで、スポーツ活動等における参加生徒等の傷害補償、プラットフォーム側の賠償責任を補償する保険。

大会参加

各種大会への参加については、各種競技によって大会参加の条件や規定が決まっているため、現在参加している大会の規約の整理を行いつつ、「関西学院」としての参加としながら、大会参加手続き、引率、大会運営などについて、プラットフォームが主体となって実施できる仕組みを引き続き検討する必要がある。(大会役員等)

	202X年度									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大会参加	既存大会ルールの整理と課題抽出					規則に合わせた大会参加のための整理と実施				

現在の大会参加（想定）

- 学校教員による大会運営
- 外部指導者がいる場合にはコーチ登録等の実施
- 顧問教員または部活動指導員による大会引率と現地での活動

段階的な大会参加

- 大会への参加については、「関西学院」として参加をする
- 部活動指導員でも大会引率等が可能な種目においては、プラットフォームの指導者が部活動指導員として引率・対応を行う
- 部活動指導員でも難しい場合には、教員に協力をいただき、指導者は帯同する

大会参加における課題

- 競技によって顧問教員によるコーチ登録や引率が必要な競技がある
- 教員による大会の運営等は学内にて整理ができない（中体連・高体連等）

※国の動きにあわせた対応が必要

検証結果

ポイント		概要
①学校部活動としての位置づけについて検討（高中部の部活動に関する職務の明確化）	部活動の教育的価値	リーダーシップや専門性、自主性（主体性）、規律、生活習慣、人間関係構築力、向上心、メンタル、人間力を育むこと、努力し、問題解決をする力、忍耐力や柔軟性、積極的な姿勢、感謝の気持ち、失敗しても立ち上がること、仲間を思いやる気持ち、活動そのものを好きと思う心等の共通理解 ⇒部活動は生徒・教員ともに教育的意義があり、学校から切り離せないものと整理
	職務範囲の明確化に向けた検討	私立学校では部活動が学校教育における特色の一つとなっており、部活動を職務から一律除くことには踏み切りにくい。アンケート結果のとおり、教員の意見は様々で、今後も引き続き学校における部活動（特に私学）のありかた、部活動に関わる教員の職務の範囲については議論していく必要がある。 また、管理職から見た際に、教員育成（マネジメント能力）の観点からも部活動の指導は有効。 ⇒部活動はマネジメントの観点で教員育成でも有用。一方で負担は軽減する必要があるため、勤務曜日等で線引きをすることで、部活動が負担となることを避ける
②大会参加資格の整理	大会参加資格の整理	現行制度では半数以上の教員（53%）が大会引率をする必要があり、部活動顧問としての大会運営も年間多い教員で40～50日関わっている。また、大会引率や顧問としての業務が残る以上、教員としての責任を外部指導員に委託できない懸念を多くの教員が持っている。 ⇒文科省の大方針が出て、運営も含む大会の在り方が変われば教員から切り離すことができる可能性もある。
③部活動費用の見える化	部活にかかる費用の調査	現行、部活動にかかる費用として保護者負担含め、約2,356万円であるが、これには人件費は含まれておらず、外部指導員に全面委託した場合には、更なる保護者負担が増えることが懸念。
④後援会・同窓会・企業との連携	地域との協働	企業として、取り組みを魅力には感じてもらえるものの、ランニングコストへの出資が難しく、プラットフォーム運営費用をどのように捻出するかは大きな課題。
⑤プラットフォーム設立時の手続きおよび課題	プラットフォーム設立時の手続きおよび課題	経営課題、運営・管理上の課題、移行に向けた生徒募集の問題、事故などの課題、大会参加・運営の課題、労務に関する課題等、細かい点での課題がまだまだ多く、実現に向けて一つずつ潰していく必要があるものの、特に予算面（ランニングコスト）・労務面で大きな課題が残っている。

関学高中部の考える部活動の教育的意義とは？

リーダーシップ

達成感

問題解決力

メンタル

規律・生活習慣

自主性・主体性

専門性

忍耐力

感謝・仲間を思いやる

柔軟性・レジリエンス

向上心

人間関係構築力

個性

積極性

努力

人間力・人間形成

競技・活動を楽しむ気持ち

「教育的意義」は共通理解があるものの、部活動でしか養えないのかどうかという点は議論が必要

部活動をとりまく課題とそれに対する教員の考え

国の法律
法人・学校

部活動の教育的意義は十分に理解しているが、教員の負荷削減・労働時間を適正化する必要
学校としての部活動の位置づけや責任範囲があり、
特に私学における「部活動」の位置づけは簡易に切り分けられるものではない

中途半端な関わりは、何らかのトラブルが発生した場合に、その責任を負わされることもあり得るため、顧問教員として負うリスクは大きい。顧問だけではなく、他の公務、担任や担当もあるので、学校としてクラブのことと同時にそれらの責任・負担とのバランスも良く考える必要がある

一方で、保護者・社会から求められる「責任」は一定あるのも事実であり、教員が負うべき責任を安直に手放し、結果、高中部教員の質低下につながらないように、注意していく必要

教員

学校の具体的なビジョンを教員間で確認・共有していくことが必要な時が来ている。
（例：部活の強豪校？受験勉強にとらわれない深い学びに軸？学校行事に重き？）
その後に、学校における「教員の職務」の範囲整理していく必要がある。

目次

1. 背景・目的

2. 検証概要

3. 検証結果の報告
   ① メイキングストーリー
   ② そこからの学び・示唆

4. 今後に向けて

Copyright © 2018 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

検証後の目指す姿

教員の職務として、顧問業務（切り分け方は一定の日時、曜日、または職務内容を線引きを仮で想定）は職務として残すことを仮定。
A:KGクラブに任意で登録し、顧問業務以外の部分はKGクラブで指導を行える形、B:顧問業務以外の部分はKGクラブで外部指導者を活用、
C:活動日数等が少なくい場合は現在のまま顧問業務のみ実施する形を選択できる仕組みを目指す。

A型

部活動指導を希望する教員
- 職務範囲内で顧問業務
- 顧問業務以外は任意でKGクラブに登録

B型

部活動指導は一部とする教員
- 職務範囲内で顧問業務
- 顧問業務以外は必要に応じて外部指導者を活用

C型

活動が少ない部活動の顧問教員
- 職務範囲内で顧問業務

関西学院中学部・高等部 → 運営委託 → **KGクラブ**

管理者
運営担当として選任人材を配置
※運営における共通する事務を選任業務として実施

関西学院中学部 ●●部

顧問教員
平日：活動日は17:00まで(仮)顧問教員として従事
休日：顧問教員が必要な大会の帯同

※所属・立場が変わる

関西学院中学部 ●●部
運営：KGクラブ（●●部）

クラブ指導者（部活動指導員）
平日：学校退勤後、指導者として従事
休日：指導者として従事（任意）

●外部指導員として登録した教員(任意)が従事

関西学院高等部 △△部

顧問教員
平日：活動日は17:00まで(仮)顧問教員として従事
休日：顧問教員が必要な大会の帯同

※顧問教員は勤務後退勤。その後は外部指導者に引継。または平日△回は自分で指導、それ以外は外部 指導者が指導等

関西学院高等部 △△部
運営：KGクラブ（△△部）

クラブ指導者（外部部活動指導員）
平日：部活動指導員として指導等を実施
休日：部活動指導員として指導等を実施

●外部指導者を積極活用

関西学院高等部 △△部

顧問教員
平日：顧問教員として従事
休日：顧問教員が必要な大会の帯同

●現在のまま

※注：定時等については、仮とし、変形労働等を導入した場合には変わる可能性あり

事業計画

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
制度設計	• 新しいプラットフォームスモール試行 • 教員と職務範囲に関する議論 • 生徒・保護者へも必要に応じてヒアリング	• 新しいプラットフォームを一部運用開始 • 教員の職務範囲を明示、教員の指導者登録開始 • 他学校との連携や他私学への横展開 • 地域を対象にした外部活動の可能性を検討		**目指す姿の実現**
活動資金	• 学内予算の活用方法を検討 • 資金調達の手法検討 • 部活動の費目別調査調査	• 学内予算の活用方法を検討 • 外部資金調達 • 事業規模の拡大による収益確保の可能性を検討		
大会参加	• 部活動指導員が参加・帯同可能な大会は部活動指導員が参加 • 教員の対応が必要な種目・大会においては、教員の職務「顧問」として対応 ※中体連・高体連の規定に伴う対応			

事業収支計画

事業費（想定）

	202X年度（4月～3月）
科目	40週稼働 中学部10・高等部16部活動想定
法人設立費 ※イニシャルコスト	230,000
指導者謝金 ※活動の50%を教員活用	16,940,000
旅費交通費（通常指導・出張等）	9,100,000
保険料（生徒・法人） ※年度	2,015,000
施設利用料 ※学内利用想定	-
備品・用具等修繕費	2,600,000
運営管理費 ※専任1名	3,600,000
会計業務費（会計士・行政書士）	480,000
	49,010,250

売上（想定）

科目	
参加費 ※月3000円、1部20名想定	24,960,000
経営支援 ※旅費・日当・手当平均より	9,630,000
	34,590,000
売上-事業費（その他必要額）	-14,420,250

大幅な赤字の見込み
他の収益源の検討が必要
- 企業協賛
- 寄附　等